

	オンラインテキスト
1	移住はすごいことではないと仰っていたのが特に印象に残りました。私の中では、移住は行動力があって何か新しいことをしたい人がすることだという印象がとても強かったです。けれど、心と体を休めたい人や久保さんのように自分の住みたい街にただ住んでいるだけな人もいることに気付かされました。今回久保さんの話を聞いていて、ぶれない自分軸を持っているのがとても素敵だなと感じました。何か立派なことを成し遂げなくてもいいから自分の好きなことややりたいことを追求していきたいと思います。
2	講義者の話を聞いて、その行動力に驚かされてばかりでした。私は高校の授業の際に不満があり、絶対にこのレベルの人たちと同じ進学先には行きたくないという高い志を持って本大学に入学したものの、そこで何がしたいのかどのようなことを学びたいのかが曖昧で現在も具体的に何がしたいのかがわかりません。ですが今回の講義を聞いてまずは何か行動を起こさないと何も始まらないということを改めて感じました。そのため私が被災地に行くということが良い行動とは限らないかもしれませんが、そんな覆すような行動を取りたいと思うきっかけとなる講義でした。ありがとうございました。
3	まず、ご講義いただきありがとうございます。 今回の授業を通して、地方移住の問題について考えました。 首都圏などの本州の都市部から北海道への移住の話も多く聞いてきました。そして、自分の地元を愛し、わざわざ都市部から移住してまで盛り上げようとする人たちに感謝の念を覚えています。しかし同時に、自分自身の生活空間がテーマパーク化されているような感覚にも陥りました。確かに、地方の人口が少ない地域には、都市部とは異なった利点が多くあります。例えば、久保さんも述べられていたような、様々な自然の風景や地域住民の横の繋がりなどです。ただ、そうした利点は、裏を返せば、自然災害による被害や地域コミュニティの閉鎖性などの問題点などを孕んでいると思います。そうした問題点を周縁化し、退廃的な都市部に対する「あたたかい
	地方」としてモデル化されることには疑問を抱きます。私は、そうしたモデル化は、それぞれの地方の軽視に繋がりがかねないと考えます。そして、そうした状況の背景には、都市部と地方との移動性の格差があると考えます。具体的に言えば、都市部からは移住先の候補として、周辺の複数の地方が考えられます。ただ、ある地方から都市部に移住するとすると、最も近くに存在する都市部が最も大きな候補地となると思います。都市部の住民と地方の住民との間に存在するそうした選択肢の格差が、両者の間に両者相互に対する認識の違いを生み、私の考えるような問題点にもつながっていると考えます。そうした点を考慮した上で、都市部の住民によって地方を対象化するのではなく、相互補完的な関係を築くことが今後の地方移住において重要だと考えました。

4	今回のお話を通して、仕事について考える際には、自分が何に向いているのかを理解することの大切さを改めて感じた。私も、0から1を生み出すよりも、1から10に広げていく方が向いていると考えており、改めてこうした自分の特性を踏まえながら仕事を探していきたいと思った。また、「人に頼ることは大切だが、それを他責にしてはいけない」というお話も印象に残った。周囲に助けを求めながらも、責任を持つ姿勢が重要であり、自分でもある程度はできていると感じる一方で、今後はよりその線引きを意識して行動したいと思った。また、岩手県出身の学生からの「地元貢献したい気持ちはあるが、東京でしかできないことに挑戦するべきか」という質問に対するお話も興味深かった。久保さんは、まず東京で経験や力を身につけ、その後地元に戻って還元するという選択肢についても話しており、将来の働き方は一つではないのだと感じた。また、就職先について「やりたいことだが安定性は低い企業」と「安定しているがそこまでワクワクしない企業」のどちらを選ぶべきかという話も印象に残った。先生が、自分の根源的な思いやと結びつけて考えることが大切だと話していた点も共感できて、私自身もこれからの就職活動で大切にしたいと思った。
5	自分がやりたいことが結果的に地域のためになっているといったところが印象的でした。私はどうしても仕事というと周りの役に立つことを考えてしまっ自分は何をやりたいのかが分からなくなってしまう。でも、そうではなくて自分がこうしたいなと思うことを大切にしてそれが結果として何かの役に立っていると考えれば少し気持ちが楽になるなと感じました。もう一度自分を見つめなおすきっかけになったと思います。
6	貴重なお話をありがとうございました。とりとめもなく話したとおっしゃっていましたが、伝えたいことがはっきり伝わり、そのことに共感し納得することが多かったと感じました。1点だけ疑問に思った点があり、それを一方的に投げかけることになってしまい大変恐縮なのですが、「他責をしないように」というテーマで、他責をすると自分の成長に繋がらないというお話がありましたが、自分の今いる職場には自責を繰り返して挫折してしまった方を多く見たので、どちらをお勧めすべきかは、人にも状況にもよればその塩梅も難しいと感じました。
7	貴重なお話をありがとうございました。質問でもあったように、私も現在就職活動中で、自身の憧れている会社に就職するか、それとも安定している会社に入社するかで迷っていました。そうした中で、久保様のお話を聞くことで、1つの生き方として参考になりました。特に、自分自身が何をすべきかわからない、自分自身が何なのか分からなくなるという現象が、今まさに自分自身の中で起きていたため、非常に印象に残りました。そうした中で、授業で仰っていた周囲の目を機にするのではなく、自分自身が喜ぶことをし、結果的に社会に貢献するという考え方は自身の進路を考える上で大変参考になります。そして、様々な人と出会いにいき、いざという時に頼れるメンターを見つけるという考え方にも共感しました。自分自身チームスポーツを今までやってきており、自分一人の力でできる事には限りがあることを身に染みて感じていました。そのため、人生を生きる上でも、人との出会いを大切にしていきたいです。この度は、貴重なお話をきかせていただき、ありがとうございました。

8	講義を聞いて、様々な経験を通して最終的な選択は自分が喜ぶ方を選ぶということが最も重要であると感じた。自分が楽しいと思ったことをやり、その幸せを周りの人にも共有していくことで自然と周りも幸せに溢れていく。久保さんの雰囲気からも今を生きることが楽しいというのが伝わってきた。また、自らイベントなどに積極的に参加する姿勢や、自分の考えを突き通せる強さを見習いたいと思った。私は心配性でなかなか行動に移せないのが久保さんの講義を聞いて、行動してみることの大切さを改めて学ばせてもらった。また、うさぎとカメのカメの方でいいから、一步一步着実に成長していける人になりたいと思った。貴重なお話ありがとうございました。
9	ゲストスピーカーの話聞いて心に強く残ったのは、陸前高田で地域の復興支援に取り組む中で、活動を継続する理由になったのが地域の人々の暖かい迎えだったという点です。ボランティアを単なる社交辞令として受け止めるのではなく、再び支援に戻りたいと思えたのは、地域の人々の挨拶や笑顔、そして暖かく迎え入れてくれる姿に励まされたからだと思います。彼女自身は、地域の人々のためにそれほど大きな助けになれていないと感じていたかもしれませんが、自分の活動がたとえ小さくても、地域に確かな影響を与えていることを目の当たりにすることで励ましを受けたのだと思います。この話を通して、働くことや勉強をすることを単なる義務として捉えるのではなく、誰かに与える行動として取り組む大切さに気付かされました。
10	就職活動中の身としては、既に社会でご活躍なさっている先輩がどのようにして自分の進む道を決めたのか聞いたのは非常に参考になる機会でした。自分はこれまでの人生で大きな夢や、やりたいことを持ったことがなく、就活の軸探しにも苦労していますが、自分と向き合い続けることを忘れず、日々邁進していこうと思います。
11	今3年生で絶賛就活中なので、自己分析がよく役に立ちました。私は教育学部なのに教員免許を取得しておらず、また特にいきたい業界ややりたい職種もなく、どのような企業に行くべきかととても迷っていました。しかし最近自己分析をしていく上で流行りのもの、おしゃれなものが好きという気持ちから広告業界への興味が少しずつ湧いてきました。広告業界は全体的にブラック、激務だということをよく聞くので躊躇していましたが、本講義で「仕事をしている時間は人生の大半を占めるのだから楽しまないで損！」というお話を聞いて、やっぱり自分の好きなことを仕事にしたい、広告業界に就きたいと思えるようになりました。
12	今回の授業で印象に残った点は多くあるが、その一つが仕事に関する考え方だ。現在私は大学4年で、一般的には就職活動を行うとされる時期である。エントリーシートや面接を行うと、今回の授業でいただいたプリントのように自分自身の軸となる考え方やその傾向と向き合うことが多い。もちろんそれは簡単に思いつくものではなく、基本的には曖昧な自分に対する理解だけをベースに行動していくことになる。その軸のようなものは、そこで抱いた違和感を自分なりに修正し続けることで作り出されるものである。今回していただいたような、経験を振り返ってされるお話は、そんな不安定さを遠巻きに肯定していただけるような感覚を得ることができ、うれしかった。

13	今回のお話を聞いて、自分のやりたいこと・楽しいことを仕事にすることは簡単ではないということを痛感した。就活する中でも自分のやりたいことよりも年収はどれくらいか・ネームバリューはあるか・ワークライフバランスはどうか、といったことばかり考えてしまう。 その中で久保さんが自分のやりたいこと・チャレンジしたいことを積極的に実行していて、かつ周囲の人にも恵まれていて、自分も久保さんみたいに行動力のある人になりたいと思った。特に、東京出身東京育ちで地方へ移住するという決断をするのは非常に行動力が必要だと思うので印象に残った。
14	私は今回の講義で最も印象に残った話は「かめのようなスピードでいい」ということだ。なぜならば、自分はしばしば一つの物事に対して早くやらなければと焦り結果気持ちが空回りすることが多いからである。例えば、高校生の時の文化祭準備で夜遅くまで準備をした結果当日の体力が残っておらず周りに迷惑をかけることがあったからである。そして、そのようなことをこれ以上起こさないためにする「カメのように焦らず生きていく術」も今回の講義で学べたと思う。講義ではゴールだけを見ずに小さな目標を一步步達成することがあげられていたものの、これも講義で述べられていたようにその小さな目標やゴールを見つけるために自分自身が何に興味があるのか自己分析をすることが大切になってくると思った。このことにより物事を俯瞰してみられるようになり、結果としてカメのようなゆったりと行動ができる「心の安寧」を手に入れられるからだ。今回の講義は今後社会に出る自分にとって非常にためになる講義であったと思う。
15	ゲストスピーカーの方のお話を聞いて自分の将来進む道を少し明確に考えることが出来たのかなと思いました。自分の目の前にはいろんな選択があるけれど、自分にとって一番幸せで充実度が高いものを選びたいです。社会人三年目の幸せな一日を想像したときにグループの意見も聞いて思ったことは、誰かと一緒に過ごすというよりも一人でゆっくり過ごしたいと思っている人が多かったです。
16	今回の講義では、「自分が喜ぶ行動をすることが、結果的に誰かのためにもなる」という考え方が特に印象に残った。自分はこれまで、周囲に合わせたり失敗を気にしすぎたりしてしまっていたが多かったが、講義の中で「小さな目標を一步步達成する」という話を聞き、最初から完璧を目指さなくても良いのだと感じた。また、「他責ではなく自責で考える」という内容も印象的だった。もちろん全部を自分の責任にする必要はないが、自分にも改善できる部分があると考えすることで、前向きに成長できるのだと思った。将来や就活への不安もあるが、まずは今できることを積み重ねていきたいと感じた。
17	東日本大震災に関連しつつも、今回はいつもより趣向の違う、人生全体やボランティアについてのリアルな体験談を聞けてとても興味深かったです。「甘えて(頼って)いい」という言葉がとても印象的でした。中高の部活や今入っているサークルでも自分の完璧主義ゆえに人に頼らず自分がやったほうが、と思い込み突っ走りがちですが、時に他人に頼ったり導いてもらうことが大切だと、ひしひしと感じました。また、人生観についても、周りの人間関係やそれを踏まえたうえでも自分の人生とやりたいことを考えて行動する姿はとても参考になり、自分もそういう人生を歩みたいと思いました。 改めまして今回は貴重なお話を、ありがとうございました！

18	幼少期から数多くの困難に立ち向かい、その都度壁を乗り越えてきた生き方に対してただ尊敬するのみである。確かな夢と目標を持ったにもかかわらず、それが即座に否定されるような結果となった場合、人によっては再起不能となることも珍しくない。このような厳しい状況下で人に頼りながら方向転換し、また新たな目標を持って人生の歩みを進めることができている姿は遅しく映った。私は困難な状況に陥ったとき、一人で全て抱え込んでしまい立ちふさがってしまいがちである。今後は適度に人を頼っていき、多角的な視点で困難に立ち向かっていきたいと改めて感じた。
19	今日の話で印象的だったことは二つある。一つ目は、久保さんご自身が岩手の陸前高田への移住理由の一つとして話されていた「田舎だからこそその魅力」だ。実際に魅力として語られていたのは、地元のこどもたちが知らない人にも挨拶をすることに代表されるような街全体でこどもを育てる風土があること、田舎の人は近所の人を良く知ってるからこそ、〇〇さんから〇〇の話の聞きました、というのを意識して言うと親近感を持ってもらえるということだ。私は福岡南部の人口一万人の小さな街出身だ。そこでは知らない人におかえりと言われるし、近所の人と仲が良い。ただ、私は東京に大学進学を機に上京するまでは、これは当たり前だと思っていた。それ故に、東京に出てきて、家がある横浜の家の近くで挨拶したら無視されて大きな驚きを感じた。そしてご近所付き合いがないことも大きな衝撃だった。ただ、私は上京したことによってこれが当たり前ではないこと、地元の魅力に気づけた。これは人類学とも共通することかもしれないが、一度自分がいる場所を離れて、当たり前を疑うことは大事なことで、成長に繋がると思った。二つ目は、完成している自分を見てそこのギャップだけを見ることはしんどいということだ。これは完璧主義的傾向のある、私がよく陥ることだ。これをしていると自分の成長にも気づけず、顔が暗くなる。私はこの癖をこの一年で良く見つめてきた。そしてそれに悩んでいる自分に対し憤ることもあった。ただ、久保さんのお話を伺って、自分だけではなかったのだととても励まされた。皆、明るい顔を必死に作って、くらいついて、挫けながらも、頑張っているんだなと思った。
20	自分は今年大学に入学したが、自分が将来どこで何をして働きたいのか、将来の仕事のために自分は今何をすればいいのかといったことをはっきりさせられないままにいた。そのため久保さんの「仕事を先に考えると人生の選択肢が狭くなる」というお話や、自分の根源を明確にすることから始めるといったお話は強く印象に残った。高校で進路を考える際はいつも将来何になりたいか、何を学びたいかをまず先に決めて進路先を決めていた。しかし今振り返ってみるとそのことによって受験先が限られてしまっていたと感じる。これを振り返ると人生の選択肢を狭めてしまった一例となるのではないかと感じた。実際には私は高校の時に想定していた学部には入学できなかったものの、以前考えてもいなかった学部学科でよりいっそう興味のある学問が見つかった。今すぐに将来のことを決めるのではなく、大学4年間で多くのことを学んだり、様々な活動に参加する過程で自分のことを知り、広い選択肢を用意できるようにした上で然るべき時に将来のことを考えられるようにしたい。

21	自己分析などで、言語化できるかどうかが大事で書き出す、というところが印象に残りました。将来どうするかなどについて悩んでいたのも、とてもためになる授業でした。そのあとにもお話を聞かせていただき、とても貴重な機会でした。ありがとうございました。グループディスカッションでは、先輩二人と自分が幸せだと思う一日について考えて共有しました。似たようなものになるかなと思っていて、実際似通うところはあったものの、意外と違った点もあり、それがそれぞれの根源につながるものなのかなと実感することができました。まだ「残す」のような根源は見つけられていないのですが、これからも自己分析を進めて考えていきたいなと思いました。色々なお話をしていただき、ありがとうございました。
22	貴重なお話ありがとうございました。楽単狙いの大学生と距離を置いたり、地方移住に興味があるという点で私と同じであると感じながら、お話を聞かせていただきました。とくに共感したのは、陸前高田に「自分が住みたいから住んでいる」というお話です。私は気仙沼でボランティアをしているのですが、その話をすると「えらいね」「すごいね」「ガクチカ？」などと必ずといっていいほど聞かれます。ですが、私は気仙沼が好きで、行きたいから行っています。本当に気仙沼の役に立てているかは分かりませんが、これからも気仙沼が好きという気持ちは忘れずに、気仙沼と関わり続けようと思っています。
23	今回のお話を通して、自分らしく生きることの大切さについて改めて考えさせられた。特に印象に残ったのは、自分が本当にやりたいと思ったことを周囲に流されずに貫いている姿勢である。また、これまでに何度か挫折や困難を経験していても、そのたびに立ち止まるのではなく、何か行動を起こさなければならないと前向きに考え、すぐに次の行動へ移していたことがとても素晴らしいと感じた。失敗を経験すると不安になったり、自信を失ってしまったりすること多いと思うが、そのような状況でも挑戦をやめない姿勢から、多くのことを学ぶことができた。さらに、将来の仕事を選ぶ際には、収入や安定性などの条件を優先するのか、それとも自分が本当にやりたいことを優先するのかという問題は、多くの人にとって非常に難しい選択だと感じる。しかし、今回のお話の中で、自分の価値観や人生観を大切にすることの重要性について触れられており、自分自身の将来について考える上で新たな視点を得ることができた。ただ条件の良さだけで決めるのではなく、自分が納得して生きられるかという視点も大切なのだと気づかされた。今回学んだことを、今後の進路選択や自分自身の生き方にも活かしていきたいと思う。
24	挫折や失敗した時の感情が私にそっくりで、共感できる面が多かったと感じた。私も過去にやってみたかったバイトを経験して、自分には仕事として役に立たないと思い、すぐに辞めてしまったことがあるが、その時に自分は全く続けられず逃げてしまったし、他の人に迷惑をかけたただけだったし、何よりも今までこんな経験がなかったから、大丈夫だと思っていたのに、できなくなって自分は社会では何もできない人間だと自身を否定し思い詰めた経験があり、その時に感じた気持ちと似たようなものを察した。大学生のうちに大人と関わりを持つということについて、私は大人と話すことが苦手なためらいがちになってしまう。そこを克服するアドバイスがあれば教えて頂きたいと思った。また自分の根源を明確にして振り返れるようにするというのも、私の根源とはなんだろうと思ってしまった。どのように、どのような点から考えれば自身の根源というのを発見できるのでしょうか。ということをおもいました。

25	今回の講義で印象に残ったことは、学生のうちは周りの人たちをたくさん頼って良いということです。私は無意識のうちに頼ったり甘えたりすることは悪いことだと考えていた節がありました。今回久保さんのお話を聞いて、頼ることや甘えることをしても良いのだなと思えて、気持ちが楽になりました。同時に、他責思考になってはいけないというお話を聞いて、他人に頼っても甘えてもその決断をしたのは自分であるということは決して忘れてはいけないと感じました。また、何事も周りと同じスピードかそれより速くこなさなければ、という焦りがあったのですが、今回「自分が主人公」という久保さんの言葉を聞いて、周り自分とを比べるより自分を主軸にこれからを考えてみようと思えました。
26	「移住＝すごい」ではないのだというお話が最も印象に残った。震災支援を契機にした移住というのは、やはり圧倒的な行動力や決断力が背景にあると感じる。しかしながら、授業を通して、移住を「すごい」と一言で表面的にまとめてしまうのは本質的な理解ではないと分かった。移住の理由というのは人により様々で、自分自身について深く見つめ直し、行動に移した結果として移住を果たしている人が多いのではないかと思う。人生の中では様々な分岐点に出会うことになるが、その度に、周囲に流されるのではなく、丁寧に自分の価値観・意志を整理したいと思う。
27	今回の講義で最も印象に残った点は、東日本大震災をきっかけに被災地へ関わり続けた結果、陸前高田を第二の故郷のように感じ、最終的には移住していた点である。最初は被災地を見ておくべきだという思いから始まっていたが、その後も継続して地域と関わり続けていたことが紹介されていた。印象に残った理由として、震災への関わり方が単なる支援活動ではなく、人とのつながりや地域への愛着へ変化していたからである。講義では、海や山の自然、地域の人々の温かさ、若者を応援する環境など、陸前高田の魅力についても説明されていた。そのため、震災を学ぶことは被害者・復興状況だけを見るだけでなく、その地域で暮らす人々や地域そのものの価値を知ることにつながるのだと感じた。また、自分の好きなことや根源を大切にしながら行動することで、結果的に地域への貢献につながる考え方にも共感した。
28	ちょうど就活の時期とかぶっている自分にとって、とても印象的な授業でした。まず、「仕事を先に考えると人生の選択肢が狭くなる」という言葉が特に心に残りました。就活をしていると、どうしても企業名や年収、周りからの評価ばかりを基準にしている自分がいます。しかし、今回の授業を通して、本当に大切なのは、先に仕事を決めることなく、自分が何を大切にしている、どのような生き方をしたいのかを考えることだと感じました。これは、簡単に見えて難しいとも同時に思いました。なぜなら、自分のことを熟知していないとこれは不可能だからです。また、久保さんが陸前高田に関わり続けた理由が、誰かのために何かすごいことをしたいのではなく、陸前高田が大好きという気持ちだった点も印象的でした。自分らしく生きるというのは、特別な成功をすることではなく、自分の中でぶれない思いや価値観を見つけ、それを少しずつ行動に移していくことなのだと思います。これから就活を進める中で、周り比べて焦るのではなく、自分の根源が何なのかを考えながら、後悔しない選択をしていきたいです。

29	今回の久保さんの講演を聞き、「自分の根源を明確にして振り返れるようにする」というまとめの言葉がとても印象に残った。現在の置かれている状況や自身の大きな目標としての未来を意識しすぎるあまり、選択に悩んでしまうことが多くあるが、自分の本当にやりたいことやどう生きていきたいかの「根源」を意識して選択を行うことで、今まで見えていなかった新たな選択肢が見えてきたり、より自分にとって良い選択ができるということは、これからの大学生活や就活などの様々な重要な選択をしなければいけない時に意識していこうと思った。また、久保さんが大変な状況に陥った時に頼れる大人がたくさんいたように、私もいろいろなことに挑戦して、様々な人と出会い、頼る心づもり？をしていきたいと思った。
30	ボランティアに参加する考え方が非常に参考になった。私は今まで様々なボランティア活動に従事してきたが、その都度様々なある種のやりづらさを抱える場面があった。1番は本当にその地域のためになってるのか？である。いくつかの地域を掛け持ちして活動してきたため、1つ1つの場所との関係性がとても深いとは言えず、中途半端な状況が続いていた。そんな状況下で、いつも喜んで出迎えてくれる地域の人々は実際迷惑なんじゃないかと考えた。久保さんのお話から、学生は小さなことからでもOKという思考や喜ばれる行動を取ることを意識しながら活動すれば、多くの人から認めてもらえると感じた。今後は、いつものボランティア活動に注力しつつ、活動毎に自分が何をしたら楽しめ、周りの人を喜ばすことができるか程よく考えつつ取り組んでいけたらと思う。あとは、出会いを大切にしていきたい。
31	自身は3年生でそろそろ就活を本格化しなければならない時期になっている。「根」「軸」を見失わないようにするために自分を振り返る時間を作らなければならないと感じた。学年が上がるにつれ自分の将来を決めなければならないという一種の圧力を感じている。就活の早期化は個人的にはとても圧迫感がある。日本は特に在学中からやらなければならないことが多すぎるように思う。何が幸せなのかよく考えていきたい。グループワークは3年生、4年生と一緒にいい刺激となった。
32	常に目的を持って行動していてすごいと思った。私は大学1年生のころ、なんの目的も持たずただ授業や課題をこなしていた。また、他責思考になることがたまにあるので、今回の話を聞いて改めようと思った。
33	自分は綺麗な家で美味しいご飯を3食食べ、睡眠時間を十分に確保する事ができたら常に幸せだと感じる。特に、家で自分の好きな映画を見て、自炊してのんびりする生活を送りたい。外に出ると家に帰らないといけない時間を気にする必要が出てきてそれ自体が少しストレスになってしまう。
34	「仕事を先に考えると人生の選択肢が狭くなる」という考え方がとても印象に残りました。久保さんは講義で、自分の「根源」を明確にし、休日の過ごし方、家族や友人との距離感、学び方、お金の使い方から、自分が本当に大切にしているものを考える重要性が示されていました。仕事も人生の重要な一部ではありますが、最初から職業で将来を決めようとする、自分らしさを失ってしまうと感じました。また、久保さんが陸前高田市に関わり続けたい理由が印象的でした。最初は「見ておかなければ」や「力になりたい」とような使命感から始まっていましたが、現地の自然や人々の温かさによってそこが第二の故郷のように感じていくのが心に残りました。

35	今回の講演で話に上がった「地元で就職するか、東京で就職するか」という話題が、特に印象に残った。私は、地元が鳥取で大学で上京した。鳥取は、地域の人はみんな知り合いで学校帰りは、知らない人でも「おかえりなさい」と言ってくれた。温かみを感じる大好きな街だ。しかし、大学進学の際、自分のやりたいことが叶えられるのは東京であるため、上京を決意した。これまでで一番大きな分岐点だったが、周りの人も応援してくれたため、「挑戦」を選択した。そして今、就職活動が始まり、もう一つの分岐点に来ている。一応、東京の会社に就職する予定で今活動している。しかし、地元の友達には帰る決断をする人も多い。地元という思い出いっぱい、家族もいる環境は私にとって安心を常に与えてくれるだろう。しかし、若さもある今、私はもう一度、「挑戦」を選択したい。挑戦しなかった未来の方が後悔すると思うからだ。この決断に少し不安も抱えていたのだが、今回の講演は私の背中を押してくれる内容であった。自信をもって就職活動に励みたいと思う。
36	お忙しいところ貴重なお時間を頂き、お話をしてくださりありがとうございました。今回の授業を通して、「自分らしく生きる」とは、周囲の評価や世間一般の正解に合わせるのではなく、自分の根源や価値観を理解し、それに沿って行動することではないかと感じた。特に印象に残ったのは、久保さんが震災ボランティアをきっかけに陸前高田と出会い、「ここに住みたい」という純粋な思いを大切にしていた点である。また、「仕事を先に考えると人生の選択肢が狭くなる」という言葉からは、就職や肩書きではなく、自分がどんな時間を過ごしたいか、どんな人と関わりたいかを軸に人生を考える大切さを学ぶことができた。加えて、久保さんが一度仕事や住まいを失いながらも、「自分の根源」を見つめ直して再スタートしていた姿も印象的だった。3年生ということもあり、就活が本格的に始まる中で、将来について考えると焦りを感じることも多いが、「小さな目標を一步步達成する」という言葉を聞き、自分のペースで経験を積み重ねていきたいと思った。そして、「自分が喜ぶ行動をする(結果的に誰かのためになっている)」というまとめが強く印象に残っており、「自分は〇〇をやりたいけど、周りは〇〇に対してどう思うか」というように気にしてしまっている自分が居た。そのため、「とりあえず考えすぎず自分の気持ちに従ってやってみよう」という気持ちにさせてくれるとともに、タメになるお話をたくさん聞くことができ、自分自身の価値観や将来像を改めて見つめ直す大きなきっかけになった。
37	期待がプレッシャーという負担に変化してしまうことがある、という話と久保さんの挫折の話が印象に残った。個人的な話になるが、地元の学校ではいつも優秀であるとみなされ、そうして大学も選んだような気がしており、そうした周囲からの評価を重荷に感じるものがしばしばある。そうしたなかで、自分の将来についてもそうした周囲の評価に影響されて決定するのではないかと考えると気分が落ち込むことがある。 だからこそ、久保さんが東京の実家に戻って自分の根源を見つめなおす時間で、外聞を気にせず、仕事も自分の生活の一部でしかない、という認識で人生を過ごすという姿勢が印象に残った。 これからいくつもの人生の選択をするのであろうが、自分の選択に自信をもつという点で久保さんのお話は非常に価値があったように感じる。

38	久保さんの生き方そのものが印象に残っています。私には考えられないような行動力とコミュニケーション能力を持っていてそれに満足することなく自分がワクワクする方へ向かって生きている姿を拝見して素晴らしいと感じました。その中でも学生と社会人は違うという部分が、後1年で社会人になる自分にとって大きく響きました。私はベンチャーと大手企業で迷っていて結局大手企業に行くことにしました。久保さんがおっしゃっていたようにどちらを選択しても後悔はあると思うし、もしかするとワクワクしなくなるかもしれませんが、自分の選択を正解だと思えるような生き方をしていきたいと思いました。貴重なお話をありがとうございました。
39	印象に残った点は、「学生の間に大人に頼る」というお話である。私は長女ということもあり、これまで先輩や大人に頼ることがあまり得意ではなかった。そのため、これからは率先して大人や先輩を頼っていこうと思った。特に、5円の例が印象に残っている。私は、人に頼る際に「申し訳ない」「時間を取らせてしまう」と考えてしまったり、頼ってしまう自分に引け目を感じたりして、人に頼れないことがある。しかし、そのような時には久保さんのお話を思い出し、これからは周囲の人を頼っていきたくと思った。また、他責や自責についてのお話も印象に残っている。私は、他人に対しては必要以上に自責してしまう一方で、家族に対しては他責の気持ちを持ってしまうことがあり、そのような自分が嫌だと感じていた。そのこともあり、一人暮らしを始めた。今後は、自分の気持ちを上手くコントロールできるようになっていきたくと思った。
40	第一に、今回の講義を聞いて自分自身が田舎の出身なので、小中学生のときに、地域の人達に挨拶をしたり、運転をしている人達にお辞儀をして他光景が懐かしく頭に浮かびました。上京してから忘れていましたが、下校途中に家族ではない人からおかえりと言われた時になんて返答すれば良いのだろうなどと子どもながらに悩んでいたことも今となっては非常に地域の繋がりを感じるイベントだったなと思います。東京→田舎（岩手）の久保さんとは逆で、田舎→東京の私は、情報がすぐに拡散されるなど田舎の生活に対して完全に肯定的な印象を持っているわけではありませんが、それでも温かさを感じるところであったと思います。
	そして、東京から岩手に行っただけでも驚きなのに、九州に行くという決断をされたことに非常に驚きました。また、その2ヶ月後に色々あって職も家も失い、実家に戻ることになったという出来事から、何か人生の分岐点になることを行う際には口約束ではなく、書面でやり取りをしたほうが良いという事務的な気づきもありました。そして何よりも、そこで挫折を経験した時に久保さんの人を頼れる力は非常に素晴らしいものだと感じました。私だったら自分の力だけでなんとかしようと考えて、結果的にまた失敗してしまうと思います。しかし、久保さんは学生時代からイベントや講演会などに積極的に参加して人脈を作っていたこと、頼ることの大切さを教えてくださった方たちがいることによって、3人もの頼れる方々がいて、その方たちのアドバイス・サポートを受けて、現在の状態まで至っています。私自身は人に頼ることが非常に苦手なので、学生のうちに頼れる存在をつくれるくらいまで人脈を広げて、そして何より人に頼ることによる成功体験を身につけることにより、今後社会に出ていくときに然るべきには誰かを頼ることのできる人間になりたいなと思いました。

41	ゲストスピーカー・久保玲奈氏の「自分らしく生きる」という姿勢から、震災との向き合い方について新たな視点を得た。震災をきっかけに「見ておかなければ」という義務感から被災地を訪れた久保氏が、やがて陸前高田を「第2のふるさと」として選び、移住に至るまでのプロセスには強い説得力を感じた。特に、移住後に直面した「職と家を失う」という過酷な経験を、自身の「根源」を見つめ直す機会へと転換させた話が深く心に残った。仕事を先に考えるのではなく、自分が何に喜びを感じ、何を大切にしたいかという「根源」を明確にすることが、結果として地域への価値提供につながるという考え方は、キャリア形成においても極めて重要であると感じる。人生の分岐点において、自責と他責のバランスを保つ大切さを、今後の指針にしたい。
42	今回の話の中で小さな目標を一步ずつ達成すればよいという部分が印象に残りました。大学に入ってから、様々な活動に参加していたり、すごい経歴を持っている人に出会ったりすることがあります。一方で私は新しい環境に飛び込むのが苦手な新しいことに挑戦する勇気がなかなか出せない性格です。そのためそういった人の話を聞くと自分も何か大きなことをした方がいいのかと考えたりその人たちと自分を比べて焦る気持ちになってしまったりということがありました。そこで今回焦らなくてもよい、小さな目標を一步ずつ達成していけばよいという話を聞きはっとさせられました。これからは少しずつ里依紗な目標を立てながら物事に取り組んでいきたいと思います。また、私は今2年生で就活が近づいてきている中で自分はどのような仕事につけばよいのだろうと考えるようになりました。そこで今回久保さんの話の中で自分は何をやりたいのか、自分の根源を振り返ってみるという話を聞きました。私は何をすればよいのかにとらわれて過去の自分を振り返ることはしてこなかったため、話を聞き新しい視点を得られたため、印象に残りました。
43	ボランティアとして通っていた岩手県で、人や町の環境や温かみに触れたことでその地を帰りたくなるような「第2のふるさと」と認識して移住を決めたという話が印象的だった。「移住」を選択した人に対して幾許か「勇気がある人だ」や「才覚のある人だ」というような印象を抱いていたが、今日話を聞いてそのような人たちも等身大の人間としての悩みや葛藤を抱えていたのだろうということが分かった。また、地方出身者として話題を共有する際に情報源となった人の名前を引き合いに出す、すなわち「人の名前を出してつながる」という習慣に共感を覚えた。複数回の葛藤・失敗・挫折の後「自分」が何者なのか分からなくなるという「アイデンティティの喪失」を経験したものの、人に頼り自分を拘束する固定観念を外す、つまり「必要なものを残して」ものを考えることで「自分らしい」生き方に近づくことができたという経験には、学ぶべきことが多いように思われる。大学院への進学や就職活動など進路の選択をする際には「目標」に付随する先入観や固定観念に囚われがちであるが、それが将来の道を狭める可能性がありその時々での幸せに寄与しないこともあるかもしれないという感覚は大学生として持つべき視点であると考えたからだ。同様に「目標ありき」ではなく、自分がその時点で欲する「幸せ」に基づいて動いたりその行動を変更したりするという姿勢には見習うべきことが多いように感じた。「ゴールという目標を常に見据えて焦るよりも小さな目標や段階を心にとめておいて少しずつ前進する」ということを意識して今後の生活でも実践してゆきたいと思う。

44	最近私は自分の立ち回りに悩むことが多くて、自分らしく生きたいと思うのに先輩と比べて落ち込んだり、他人のために無償で活動する部活のマネージャーをやっていたり、心が折れることがたくさんありました。もともと他人のためになにかすることは好きだったのですが、大学に入ってから部活のマネージャーとしては感謝もあまり伝わらず、なんのためにこんなに頑張っているんだろうと考え込んでしまっていました。しかし、今日話を聞いて、まずは自分を大事にすることが、結果的に誰かのためになって、幸せになれるのだと少しもやもやが消えた気がしました。人は幸せそうな人に集まる、という話で、私はよく友達や初対面の人からも、楽しそうに生きてると言われるのですが、そうではない私を隠すようにひとりで抱え込むこともあり、今日の講義は心が軽くなる素敵な時間でした。なによりも、社会に出て働く上で好きなことをするという簡単そうでとても難しいことを叶えるのはこういう方なのだろうなととても実感しました。はっきりと私はお金を重視していないとおっしゃっていたことが私にはとても衝撃で印象的でした。お金で幸せになるよりも、好きな場所で好きなことをして生きる幸せは、人が人生で得られる最も価値のあることだと思います。
45	わたし自身もサークルでボランティア活動をしているので、地域とか変わる時に意識していることは共感することが多かった。笑顔で明るく接することで、自分自身が楽しいだけでなく地域の方にも喜んでもらえると感じる。一方で、わたしは自分の経験を通して、自分が地域の方に優しく温かく接してもらえるのは外部の人間だからなのではないかと思っていた。結局のところ地域の方々にとってわたしたち学生は「お客様」にすぎないのではないか、と。しかし久保さんは実際に陸前高田に移住されて、移住後も地域の方は温かかったとおっしゃっていて、実際にやってみないとわからないことがたくさんあるのだと思った。ボランティアだけでなく人生のいろいろな場面で「こう思われているのだろうな」と勝手に想像してそれに合わせて行動したり何かを諦めたりすることがある。今回の講義を通じて、それはすごく勿体無いことなのだったと思った。他人にこう思われているから、と思ってもそれが本当かはわからないし、何よりも自分軸で行動することが大切なのだと感じた。
46	本日は貴重なお話をありがとうございました。本日の講義で最も印象に残った点として、久保さんが自分の根源を見直すプロセスがあり、現在の自分の状況と照らし合わせて考えたいなと思いました。私は現在3年生で就職活動の第一歩を踏み出していますが、自分にはどのような軸を大切にしているのか不安定なままに突き進んでいた傾向があり、日々就活サイトからのメールや周囲の人を見比べてただ焦りを募らせていただけでした。しかし、本日の話を聞き、ゴールだけを見るのではなく一歩ずつカメのように目標を達成するという点にはっとさせられ、大企業に入るという到達点だけを見て最初の一歩すら踏み出せていたか怪しかった自分がいることに気付き、そのマインドの転換のために、もう一度自己分析をして、自分の軸は何か、よく考えてみたいと感じました。
47	私は今回の授業で自分が喜んでやりたいことをするということがとても印象に残った。それは、現在就職活動が本格化していく時期に差し掛かっていることもあり、周りの状況に流されるのではなく、自分の本質を理解することによって進路を選択することの大事さを表していると感じた。

48	今回の講義は、ゲストスピーカーの久保さんのお話を伺った。特に印象に残ったのは、震災をきっかけとして陸前高田へ訪れた久保さんが、現地の自然や人々に魅了され、それが「大好きな町」となり、移住するという選択をされたことである。そして、「陸前高田市が好きだから」という理由で移住をされたことに、移住の本来の在り方を再認識させられるような気がした。
49	久保さんの「自分らしく生きる」という講演から、仕事選びの本質を深く学びました。個人的に最も印象に残ったのは、就活において自分の「根源」を見つめ直し、本当に自分がやりたいことを選ぶべきだという点です。私は現在、スポーツの現場の魅力を100から105へと高めるような、正確で客観的な実況を届けるアナウンサーを目指し就職活動をしています。今回の講演を通じ、この目標こそが自身の喜びと他者への価値提供が重なる道なのだと確信できました。今後は他責思考に陥ることなく自らの意思で人生の分岐点を選択し、焦らずに目の前の小さな目標を一つずつ達成していきたいです。
50	今回の講演会で震災によって人生が大きく変わった人がいることを知り、人生観が変わった。自分がやりたいことを将来やっていくことが重要なのだと知り、自分もその精神で一つ一つ目標を達成していきたい。
51	今、大学四年生です。やりたいことがなく、得意なこともなく、毎日抜け殻の様に過ごしています。就活もしておらず、卒業後にどうするか全く考えていません。まさに自分が分からない状態です。自分は本当に何がしたいのか、どんな人生を望んでいるのか、今日いただいた紙に書きながら、自分の根源を見つけようと思います。今日一番印象に残ったのは、他責思考は何もいいことがないというお話です。最近、遊びに行く予定だった人と言い合いになり、仲が悪くなってしまいました。相手の返信が遅くてなかなか予定を決められなかったのが原因だと考えていましたが、自分にも原因があったと考えて、人付き合いのレベルを上げることに生かそうと思います。
52	今回の講義では、地域に関わる際にその地域の良いところをほめること、共通の知人の名前を出すことが重要であるということが印象に残った。私は2年次に地域連携ワークショップに参加し、石川県珠洲市を訪れフィールドワークを行なったことがある。インタビューで貴重なお話を聞かせてもいただけたが、地域の方々と親しい関係にはなれなかった。インフォーマルな交流では、フォーマルなインタビューでは得られないような情報に接することもできるからフィールドワークに際しても地域の方々との親交を深めることは重要である。今回の講義を聴き、ワークショップのフィールドワークでは確かに珠洲の良いところをインタビュー対象の方にあまり言うておらず、地域の方の名前を出すこともなかったことを思い出した。自分が愛着を持つ地域を褒められたらほとんどの人はうれしく思う。また特に農山漁村では地域住民の繋がりが堅固であり、フィールドワーク中に知り合った人の名前を出すことでその人の話題を軸に会話を盛り上げることもできる。私は地理学を専攻しているので、卒業までに何度がフィールドワークをする機会が残されている。次回のフィールドワークでは、今回得た2つのポイントを意識しながら対象地域の方々との交流を図りたいと思った。

53	陸前高田を被災地と見るのではなく、地域そのものに魅力を感じて移住されたことが印象的でした。特に「いいと思ったことは言葉に出す」という久保さんの考え方に感銘を受けました。道を譲ってくれた車に対して深々お辞儀をすることは、同じく東北の田舎で育った自分にとって当たり前のこと。それを今回久保さんが地方の良いところとして紹介してくださったからこそ、自分達の中の当たり前が誇れることなのだと気づきました。外部のコミュニティに入ることを躊躇せず、いい意味でよそ者だからこそその視点を持つことの大切さを実感しました。また自分の根幹を言葉で説明できればどんな選択でもいいというお言葉も印象に残りました。質問者の方と同様、私もやりたい職業と住みたい場所のギャップに困っていました。高校三年間では決められず、地元の近くの大学と本学の両方を受験し合格をもらいましたが、東京の大学に進学したほうが希望する会社に入りやすいと考え、上京することを決めました。この選択を後悔しないかずっと心残りはありますが、久保さんの「将来地元に戻元するために遠くで頑張っていると思えばいい」という言葉で心が軽くなりました。私も自分の根幹は何なのかこの4年間で考えていきたいと思います。学生でも、そこに住んでいなくても貢献できることはあると学べるとても貴重な経験をさせていただきました。本当にありがとうございました。
54	今回はお忙しい中発表をしていただき、ありがとうございます。私がこの講義で特に印象に残ったことは、仕事を先に考えると人生の選択肢が狭くなるということです。私はまだやりたい仕事というものを見つけることができていないのですが、いざ就職を考えると早めに職種を決めたいなと思っていました。しかし、そうすると他にも興味があることをやっても将来に役に立たないかもしれないと思ってしまい、実行できなくなってしまいます。そんな時、この講義でいろんなことが参考になりました。人生は常に分岐点という言葉は自分探しをするのにとっても心強い言葉になりました。これらのことを踏まえて今のうちからいろんなことを経験して自分の「根源」を探すことに努めていこうと思います。今回は本当にありがとうございました。
55	気仙沼に移住した方がいるということは知っていましたが、実際に移住した本人の方からお話を聞く機会はありませんでした。久保さんの移住についてのお話の中で、私の住みたい街に住んでいるというご説明があり、この捉え方は私にとって新たな捉え方で新鮮に感じました。また、小さなことでも関わり続けてくれることが嬉しいと言われたというお話が印象に残っています。私の気仙沼サークルの活動においても、現地の方から同じように言われることがあるため、共通点を感じました。そして、学生の間にたくさん大人に頼ることが大切であるというお話を聞き、現在大学3年生で残りの大学生活は少なくなってきましたが、心にとどめて生活しようと思いました。加えて、自分のやりたいことからどういう仕事にするかを選ぶことが大切であるというお話をお聞きして、現在就職活動中なので参考にしたいと思いました。

56	「残す」という自身の根源を大切にしながら人生を歩んでいる久保さんのお話を聞き、非常に感銘を受けた。特に印象に残ったのは、久保さんが陸前高田の方から言われたという「おかえり」という言葉である。「おかえり」という言葉には、本当に多くの含蓄があると思う。親しい人、そこに戻ってくることが自然な人に向けられる言葉であり、言われるだけで自分の存在を肯定してもらえそうな温かさがある。だからこそ、血縁関係もなく、ゼロから地域の方々との関係性を積み上げてきた久保さんがその言葉をかけられたということは、本当にすごいことだと感じた。久保さんもおっしゃっていたように、「また来ます」を単なる社交辞令にせず、実際に通い続けた久保さん自身の強さや一貫性が、地元の方々に伝わったのだと思う。とても素晴らしいエピソードだった。自分もこれから地域の方々と長く関わる機会があれば、久保さんのように「おかえり」と言ってもらえそうな関係性を築ける人になりたいと強く思った。また、久保さんが「残す」ことを人生のテーマだとおっしゃっていたことも、とても素敵だと感じた。新しいものを生み出したり、発展させたりすることに目が向きがちな現代において、古いものや既存のものを受け継いでいくことを自分の根源としている久保さんの生き方は、むしろ新鮮で、深く興味を引かれるものだった。
57	今回の講義では、久保玲奈さんの経験を通して「自分らしく生きること」について学んだ。久保さんは東日本大震災をきっかけに陸前高田と関わりを持ち、地域の人々との交流を通して「ここに住みたい」と感じるようになったという話が印象的だった。また、「仕事を先に考えると人生の選択肢が狭くなる」という言葉も心に残った。自分の根源や好きなことを大切にしながら生きることが、結果として仕事や将来につながるのだと感じた。周囲と比べて焦るのではなく、小さな目標を積み重ねることが大切だという考え方は、今後の学生生活でも意識したいと思った。
58	久保さんのお話は現在大学4年生として就活を進める私にとっては考えさせられるものばかりだった。自己分析や企業研究を進めていると、自分のやりたいことがむしろわからなくなってくるがあった。そもそも自分が将来やりたいことが定まっている学生の方が少ないのではないかと思う。さらに自分がやりたいことや進みたい企業が見つかったとしても、その業界や企業の専攻を突破できないことなど日常茶飯事だった。そんなことを考えながら今回の講義を聞いていたため、多くのことを考える講義だった。将来の自分の姿を考えると私に私が大切にしている考え方は、「やりたいことをやる」よりも「やりたくないことを避ける」というものだ。就職活動を進め現実を見させられたからこそ、この考えがより強まった。これは一見ネガティブに見えるかもしれないが、将来の選択肢を多く残すためにはむしろ悪くはないと感じている。「やりたくないことを避ける」を実践した上で、その状況の中で「やりたいことをやる」をこれからのあらゆる場面で実践したい。

59	今回のゲストスピーカー講義で印象に残った点は正解に目を向けるのではなく、自分の本心で行動するということだ。今までの自分なら人生の分岐点に立った時、世間一般的な考え方に頼ってしまっていた。そしてその時にした選択を後で自分で責めてしまうこともあった。しかし、久保さんがおっしゃっていた「どの選択にも後悔はある」という言葉にハッとさせられた。久保さんが言っていたように選択をして後悔をすることもあるが、それをどうやって自分の中で正しい方向に進めて行くのが大切だということに気づいた。授業内で就職活動での選択に関しての質問をしている方がいて、それに対しての久保さんの答えも印象的だった。選択に絶対的な正解はないということを心に置き、これからの自分の人生を周りのプレッシャーに流されずに自分らしく生きていく勇気がついた。
60	今回の講義の中で特に印象に残ったのは、久保さんが「自分の好き」や「自分らしさ」を大切にしながら生きているというようなことを仰られていたところです。その理由は、講義を聞きながら自分自身のことをすごく考えさせられたからです。私はよく、「今進んでいる道は本当に合っているのかな」とか、「このままでいいのかな」と悩んでしまい、なかなか行動できなくなることがあります。また、「こうしよう」と前向きに決めたはずなのに、すぐに自信をなくして下を向いてしまったり、周りの人と比べてしまうことも多いです。だからこそ、周りやお金などの目に見えるものに基準を合わせるのではなく、自分の「好き」や自分だけの「大切なもの」「これだけは譲れないもの」を大切に前に進んでいる久保さんの話がとても心に残りました。講義を聞きながら、自分は本当に自分の「好き」や「やりたい」を大切にできているのかを振り返る時間にもなりました。そして、私ももっと、自分の気持ちや「好き」を大切にしていきたいと思いました。 貴重なお話を聞かせて頂きありがとうございました。
61	今回のお話の中で一番印象に残ったところは人にたくさん頼った方がもいいけれど決して他責にしないということです。
62	貴重な講義をありがとうございました。久保さんのこれまでの経験について深く理解することができ、また自分らしく生きることの大切さを学ぶとても意義のある時間になりました。最も印象に残ったことは、「移住＝すごいではなく、久保さんの中での移住は自分が住みたい町に住んでいる」という価値観です。自身がどう捉えるかが大事だとわかりました。私も今就職活動が終わり、2社のうちどちらに行くかすごく迷っています。周りからの評価を正直気にしてしまい、難易度の高い企業へ進む予定だったのですが、今回の久保さんの講義をきき、しっかりと自分が大切にしている価値観や軸などを踏まえて検討すべきだと思い、あらためて将来について考える機会になりました。
63	とてもためになるお話をありがとうございました！自分自身、就職活動を終えたばかりの4年生で、2社から内定を頂いておりどちらを選ぶかを悩んでおります。そのなかで、同じような質問に対してのご返答がとても印象に残りました。「どちらに行っても、きっと後悔する場面がある」という視点は今までないものだったので、ハッとさせられました。後悔した際にもこちらを選んでよかった！と思えるような選択を今見極めてできればいいなと感じています。また、自分のために頑張ることが巡り巡って地域や他者のためになる、というお話も、とても印象に残りました。

64	今日の久保さんのお話を聞いて、すごく心に響くことばかりだった。震災を通して自分の生き方を見つけるとというのが素敵だった。私も震災に関心があるからこの授業を履修しているが、実際に何度も通うほどのめり込めてはいない。そういった点で私も「自分がわからない」となる。興味がある授業を取っても何かが違うと思い、何の勉強も続かない。しかし、少し道から逸れても自分のやりたいことを見つけられる、続けられる道はあるのだと知り、勇気が出た。
65	講師の方の歩んできた人生を聞いて、自分と重なる部分があり、共感できた。過去にどんな選択をし、どんな道を選んできたとしても、過去に依存するのではなく、分岐点に立ったその時に自分がベストだと感じた判断をすることが何よりも大事で、またそのことがその後の自分の心の支えになり、人生が豊かになるのかもしれないと感じた。自分の人生を最も良いものにできるのは自分しかいないのだと改めてわかった。
66	本日の講義は、移住や職と家を失うといった挫折、そしてそこからの再スタートという実体験に基づく、非常にリアリティと温かみのある内容であった。特に、人生の分岐点において自分の「根源」を明確にすることの大切さや、他責・自責のバランスに関するお話は、これから社会に出る私たちにとって重要な指針になると感じた。講義の中で最も私の心に印象に残ったのは、「学生の間に大人にたくさん頼る」というメッセージに関連した、「頼る・頼られる」関係性についての視点である。私は元々、身内の人間に対しては上手に頼ることができる一方で、少し関係性が外の人間に対しては遠慮してしまい、うまく頼れないという課題を感じていた。しかし、今回の講義を通じて「自分が頼られる側だったら、どう思うか（きっと快く引き受けるはずだ）」という逆の視点を得ることができた。この見方ができたことで、少し外の関係性の人に対しても、心のハードルを下げて教えを乞う勇気が湧いた。また、質疑応答の中で語られた「自己分析を1晩寝かせる」「ゆっくり少しずつ考える」というアドバイスも深く印象に残っている。最近、ゼミ選考に向けてのESを作成する中で、自身の関心領域を言語化する機会が増えた。しかし、いざ書き上げて提出した後に「もっとこう表現すればよかった」「そもそも少し考えが変わったかもしれない」と後悔することが度々あった。人間は変わる生き物であり、人生は常に分岐点であるからこそ、焦って一度で完成させようとするのではなく、時間を置いて客観視することの重要性を改めて言語化していただけたことで、これまでの自分の焦りや後悔がずっと腑に落ちた。本日は大変面白く力が湧き出る講義ありがとうございました。

67	本日の講義を受け、ゲストスピーカーの久保さんのライフヒストリーから、不確実な社会を生きるためのキャリアデザインの本質を学ぶことができた。特に印象に残ったのは、「憧れの人は楽しそうにしている。その姿に自然と人が寄ってきて物語が始まる」という言葉だ。私たちは就職活動や進路選択に直面すると、どうしても収入や知名度、あるいは自分の専攻といった「外的な条件（リンゴの実）」ばかりに目を奪われがちになる。しかし、久保さんが経験した葛藤や挫折が示すように、他者からの過度な期待や役割に縛られた選択は、結果として自分自身をすり減らしてしまう。過去の肩書きを一度横に置き、自分の内面と向き合ってみ出した「残す」という根源（根っこ）を軸に、主体的に「自分が喜ぶ行動」を選択するからこそ、内側からエネルギーが生まれ、周囲を巻き込む力になるのだと感じた。「兎ではなく亀でいい」という言葉の通り、周囲のペースに焦ることなく、まずは自分自身が人生の主人公として楽しめる「根源」をじっくりと耕していきたい。社会に出る前に、この自己変革の視点に触れられたことは大きな収穫だった。
68	自分がやりたいと思ったことを優先して幸せに生きていくことが全体を通して久保さんの人生の指針であることがわかった。また自分はこんな風に自分の責任を持って生きていくことはできずいわゆるルールに乗った生き方しかできない弱い人間であるため羨ましく感じた。
69	今回の授業を通して、「自分の根源を明確にして振り返る」ということについての経験を聞くことで、自分の価値観について見直した。自分が本当にしたいことは何かを考えると、やはり今後の進路について向き合おうと思った。東日本大震災のように日常が失われて当たり前であったことが当たり前ではなくなった時に、自分がもっとも大切にしたいことは何なのか、自分は何を目標にして行動したいのかについての大切さに気づき考え直す。しかしこのような出来事がなくても日々過ごす上で自分について正直になって考えることが大切であると改めて感じた。
70	今回の講義で久保玲奈さんが語った、中高時代の葛藤から陸前高田への移住に至るまでの変遷は、自身の人生設計を見つめ直すうえで非常に切実な問いとなった。特に、小学生時代や中学生時代に受けた疎外感や周囲との不一致を、高校での環境変化によって「個性」として肯定できるようになったプロセスには、自分らしく生きるために必要な試行錯誤の重みを感じた。自分らしく生きるということが、社会の既存の枠組みに適應することではなく、自身の根源にある違和感や、心が動く瞬間に素直になることだという指摘は、将来の進路を考える今の自分に深く刺さった。久保さんは、東京都出身で、大学の建築学科で学びながら、まちづくりコンサルや建設会社での設計実務を経験した。そのキャリアの過程で、無職・家なしという期間を経て、現在は陸前高田でフリーランスとして「残す」ことをテーマに活動している。この一見すると一貫性のない紆余曲折こそが、彼女独自の「らしさ」を形作っているのだと感じた。私は将来、NEXCO東日本への就職を予定しており、社会基盤を支える組織の一員としての役割を強く求められる。しかし、久保さんが岩手での生活と東京での活動を往還しながら、フリーランスという立場を柔軟に使いこなしているように、組織の論理を絶対視せず、自分自身のやりたいことを並行して育てていく生き方があるのだと知った。

	また、講義資料で触れられていた「自分が喜ぶ行動が、結果的に誰かのためになっている」という考え方は、私の現在の取り組みと強く結びつく。私は現在、家族が代々守ってきた木更津市にある家屋の引き継ぎ手続きを進めている。当初は、管理や維持にかかる経済的負担を重く感じ、やらなければならない義務として捉えていた。しかし、久保さんが陸前高田という土地に根を下ろし、その地域の記憶や歴史を残す活動をライフワークにしている姿を見て、自分の家屋も過去から現在、そして未来を繋ぐ重要な場なのだと認識が変わった。 その家で大切にされてきた記憶を自分が受け取り、どう繋いでいくかを考えることは、維持という作業を超えた、自分の歴史と向き合うプロセスそのものである。講義の中で久保さんが強調していた「ゴールを一足飛びに目指すのではなく、小さな目標を一つずつ達成する」という言葉は、現在の私の行動指針となった。 今後は、社会人としての役割を果たすだけでなく、学生時代に多くの場所へ足を運び、自分の価値観を刺激してくれるメンターと出会う機会を増やしていきたい。組織のラベルに埋没することなく、自分が心から望む行動を選択し続けること。それが、今の私が久保さんのお話から学んだ、自分らしく生きるための具体的な一歩である。
71	自分が喜ぶ行動が、結果的に誰かのためになるという視点は、自己犠牲ではなく、自分のエネルギーを起点に周囲に貢献していく素晴らしい循環の形だと感じた。また、学生という貴重な時期に多くの場に飛び込み、メンターを見つけること、そして大きなゴールに圧倒されずに小さな一歩を積み重ねる重要性は、今後の指針にしたいような温かくも実践的なアドバイスとなった。 この教えをヒントに、自分にとっての「幸せな1日」を端的にまとめてみた。 午前自分のワクワクに沿って動く。自分の大好きなサッカーボールを手に取り、新たなドリブル技を身につけるなど、自分の「好き」や「心地よさ」を満たす時間を全力で楽しむ。 午後は新しい刺激と出会いの場へ赴く。少し遠くまで車を走らせ、自然豊かな場所を訪れてリフレッシュする。あるいは、普段行かないコミュニティや場に足を運び、新たな気づきやメンターとなるような人との対話を楽しむ。 夕方は小さな達成感と誰かの笑顔を補給する。今日やりたかった「小さな目標（本を1章読む、1つのスキルを意識して練習するなど）」を無事にクリアし、自分の充実感を得る。さらに、自分の行動や笑顔が、一緒にいる友人や周りの人の喜びにも繋がっていることを実感する。 夜は1日の終わりに、自分のブレない軸を再確認し、「今日も良い一歩が進めた」と納得して眠りにつく。 自分の「快」を大切にしながら、小さく、着実に前へ進む。そんな日々の積み重ねこそが、最高に幸せな1日だと感じる。
72	今回の講義で特に印象に残っていることは「乗り越えるために過去の選択の際の判断軸を振り返ることが重要である。」というお話をされていたことだ。久保さんが別の仕事に移った際に大変だった時期でも自分軸で判断されていたからこそ乗り越えることができ、現在の活動につながっていると実感した。私自身、大学4年生で就職活動を終えたが、「有名な企業に行って安定した暮らしをしたい」という理由で就活をしていたが、もっと自分と向き合ってやりたいこと、優先したいことを改めて企業を選ぶ際に考えようと思うきっかけになった。さらに、大学生の間にいろんな人との出会いを大事にして自分の中の選択肢が狭まらないようにしたいと考えた。

73	1級建築士をとっているのにも関わらず、全く別のキャリアに就いたという点が驚きました。自分の過去の努力や結果は、その時に必要であっただけで現在も必ずそれを活用する必要はないと感じました。過去は自分の土台でありつつ、縛られる恐れもあると感じました。自分が今何を求めているのかを、「自分の幸せ」を第一優先に考えていきたいと思いました。
74	じぶんが幸せだと思える一日を、自分が社会人で休日を過ごすことを想定してグループで話し合う中で、何もしないでただやりたいことをゆっくりしたいという人もいた一方で、わたしは人と会うために外出して自分の趣味を優先して一日を過ごすことが理想的だと考え、それに同意する人が大半だった。今楽しんでいる学生生活の延長を続けたいのかなと感じた。
75	「移住＝すごいではない」というお話が響いた。都会から地方へ移住することは、覚悟が必要なことで、すごいと言われるし、逆に都会で働くこともかっこいいと言われる。でも、移住したこと・都会で働くことがすごいのではなく、本人が成し遂げたいこと・やりたいことに対して熱意を持って行動していることがすごいのだと改めて感じた。私は就職先を地元で決めた。東京で働くことは憧れだったが、環境とやりたい仕事を天秤にかけて、やりたい仕事を優先することにした。正直、まだこの決断に自信は持てていないし、東京でやりたい仕事があったと今でも悔しくなる時がある。それでも、地元でこの仕事をするを選んだよかったと思えるように、自分なりの正解を見つけていきたいと、今回強く思った。
76	自己分析の結果が、「残す」というすごく抽象的な言葉になったと聞いて不思議に思い、交流の時間に質問させていただいた。そこで、本よりも人から聞いた話を書き留めることが好き、どこか遊びに行くにも1人ではなくシェアできる人と行きたい、自分だけで留めるのはもったいない、誰かに伝えたい発信したい、という思いがあると教えてくださった。私は、本を読んで印象に残った言葉をめもにするし、授業中は先生やゲストスピーカーの方のお話をメモに残すし、作文の授業は時間はかかるけれど好きだった。また、文化祭の準備のときはその日の振り返りと嬉しかったこと悲しかったことなどの感情を翌日のやることリストとともにスマホに記録していた。しかし、これらはすべて自分用の記録で、他の人に伝えるためのものではなかった。作文ですら、人に読んでもらうためではなく、未来の自分が読んだときに、今の私はここにいるよここでちゃんと頑張ってたよって、思い出せるためだけに書いていた。

	「人よりほんの少し努力するのが辛くなくて、ほんの少し簡単にできること、それがお前の得意なことだ」高校時代の友人によれば、私はいつも笑顔、という印象があるらしい。それはたぶん、言葉を探して伝えるのが下手だからとりあえずニコニコしているんだと思う。人に伝える言葉を探すのが苦手で、傷つけてしまったことも今まできつとたくさんあって、だから、本の中とか誰かのお話の中に、今の自分を表してくれる言葉や、悩んでいる友だちや大切な人に届けられる言葉を探している。そして、本の中にある好きな言葉や、感じたことを文字にして残しておいたものは、時間が経ってしんどくなったときにそこに変わらずあるっていう安心感がある。同じ、書き留めるって行為でも人によって違うんだなあ、と知った。 また、交流の時間に法学部の学生さんが、人を見たらまず良い人と思う、と言っていた。その経緯が印象に残った。私の場合、自分もしんどいときがあるってことは他の人もあるよねって気づきから、ありがとうを伝えようと意識するようになった。また、文化祭を通して、頑張り方は一通りじゃないし、誰がどれだけ頑張ったかなんて1つの基準で測れるものではない、と気づいた。そこでちゃんと事情を聴くことをせずに「みんな頑張ってるんだよね」で、勝手に自己完結して必要なことを言えないのがたぶん私の短所ですが、こうして考えてみると、私の場合、「いいところみつけ」は意識的に始めたものだったなあ、と気付かされました。
	レポート用に文献を探していたところ、震災後に子どもたちの間で「津波ごっこ」という遊びがでてきた、と知りました。私は何も知らないままその場面に遭遇したならば、怒りはしなくても、さりげなく他のことに注意を逸らさせようとしてしまうだろうと思います。しかし、当時のボランティアの方は、これを子どもたちの震災体験の表現として受けとめたそうです。私は、それを想像することはできなかったし、初めから人を良い人だと信じ切ることはできないけれど、だからこそ、学んでおきたいと強く思いました。
77	お話の中で、挫折した際に自分の根源探しをしたら何をすればいいかが見えてきて行動に移せたという話がとても印象的でした。それこそ建築学科を出ているから建築をしなくてはいけなわけではないし、自分の興味や関心の共通することに正直になれば幸せに生きれるというのは、常識に縛られず自信をもって自分の道を選んでいる姿で、とても影響を受けました。正直自分は今大学二年生で、やりたいことは漠然とはあるものの、迫りくる終活に焦ってしまっていて何が自分の根源かわからずにいます。ただ今回の話を聞いて、今しか立ち止まって自己分析ができる機会はない問いと思ったので、自分とたくさん話し合いをしてみようと思いました。
78	「自分の根源を明確にする」という言葉が印象に残った。そこに行きつくまでの久保さんの葛藤や挫折は私自身も就職活動を前にして経験したことであり、国際教養学部に入學したことで海外で英語を使って働くべきなのではないかということにとらわれていた自分自身の姿を思い出した。私も就職活動をする中で得意なことと仕事にしたいことは異なると気づき、国際的な仕事にこだわらずに自分が生きたいように生きるうえで大切にしたいことを軸に行動した結果生まれ育った地元に貢献する仕事に就くことになったため、久保さんの考え方には共感する部分が大きかった。久保さんの生きてきた経験を聞いて、学生生活が終わりに近づいている私自身も積極的に大人から学びを得る機会を取り入れていこうと思った。

79	本日のゲストスピーカーの久保玲奈さんのお話を聞いて、特に印象に残ったのは人生の進路における「根源」があることの大切さである。久保さんは、質疑応答の際に「どちらの内定先に行けばいいかわからない」という質問に対して、「自分のした選択に対して、立ち返れる軸があるかどうか」で決めるのもいいとおっしゃっていて、その答えがとても腑に落ちた。自分に対して誠実に真摯に向き合い、自己分析を深めることで、さまざまな新しい可能性を自分で認知することができたり、つらいことや失敗があってもやり直せたりするということは、とても重要な人生の先輩からのアドバイスであると思った。また、
	様々な挫折や失敗があっても、素直に人に頼ったり、他責をせず自責をすることで前向きに取り組めたりするということも、とても参考になった。私も、失敗を恐れずチャレンジして、もし失敗をしてしまったら誠実に向き合い、自分の責任として反省しながら素直に他人に助けを求める社会人像を目標としたい。そんな社会人として生き、ほかの方にもそんな素直で物腰柔らかい姿勢で向き合いたい。また、陸前高田で地元の方々の暖かさのお話もとても印象に残った。月に一回でもるく陸前高田に通い、関係を保ち続けることでだんだんと「おかえり」と言っていただけになったというお話もあったが、被災者の方々に対して「被災しなかったがボランティアをしてあげてる人」ではなく、一人の社会人として真摯に向き合う久保さんの姿に地元の方々も応援してくれていたのかなと考えた。そのような普段行われている当たり前の人間関係における姿勢が、名目としては被災者とボランティアという関係ではありつつも、震災時にも守られ大切にされていくべきと思う。久保さん、授業後にお話しする機会をくださりありがとうございました。「いざというときに役に立てる人」を目標にフッ軽な弁護士となれるように頑張ります。お体ご自愛下さい。さらなるご活躍をお祈りしています。
80	貴重なお話をお聞きすることができ、良い経験になりました。自分は将来地方の自然が多い地域に移住して生活をしたいという風に思い描いているのですが、何の仕事に就くのかについて悩んでいます。親には最初の数年は東京の大手に入って実家通いするか、地方勤務でこの夢を叶えるかといった意見をもらっているのですが、それでは自分で決めた感が薄い感じがして納得できていない状況でした。そんな中で今回お話を聞いて、やはり自分で行きたい場所ややりたい仕事を決めて悔いなく生きようと思えました。また、将来の自分を具体的に思い描いたことがなかったので、休日の一日を考えたことで少し幸せな将来に向かっていく活力が生まれたような気がします。ありがとうございました。
81	今回のお話の中で自分が喜ぶ行動や自分のやりたいことをするという考え方が印象に残った。私は将来、社会貢献や人の役に立ちたいと思っている。実際にどのように貢献していくかについて考えたときに、人の役に立つことはまわりまわって自分のためになると感じていた。私は人の役に立つ方から何をすればいいのか考えていたが、自分のためになるやりたいことが結果として社会の役に立つという逆の矢印もあると知ることができた。久保さんのお話を聞いて、自分の考えが深められたと思う。また、自分の根源を見つけることを実践したいと思った。就職など、今後自分が何をしていくか考えるときに仕事や行動の内容から考えてしまいがちである。しかし、お金や時間を含め、自分が人生で何を優先したいのかといった自己理解をしてから、たどりついた仕事の方が有意義に過ごせると感じた。

82	来年大学を卒業する自分にとって、すごく勉強になるお話をたくさん聞くことができた。自分の進路を決定していくプロセスの中で「自分が分からない」という段階にハマるのを僕自身も経験してきたので、非常に共感できた。自分が喜ぶ行動や自分がやりたいこと、自分の様々な傾向を根源として残して、それが叶う仕事をする、というスライドに関しては自分の進路決定の1つのバイブルになると感じた。 また、まちづくりコンサルと大手建設会社でまちづくりコンサルを選んだことについてのお話で、この選択を今振り返っても、同じ選択をしていると思うと仰られていたことはすごく勇気づけられた。どんな選択をしても必ず何かは後悔してしまうことが人間の性だとしても、10年後に自分の選択を振り返った時に後悔はしていないと自分の口から言える人生を、選択をしようと自分の中で思い直すことができた。 自分の根源をもう一度振り返り、意思決定の段階でベストな選択肢を選べるように、そして、やると決めたら自分がどうなりたいかしっかりと目標を立てて、小さな目標から1歩1歩自分を成長させていこうと、当講義を終えて感じている。
83	仕事を先に考えると人生の選択肢が狭くなることに対する考え方について、すごく納得をした。これは私の推測になってしまうが、自分がこれまで努力してきたことに対する執着を無くすことがどれほど難しいかを実感した上で、このお話をされているのだとすごく感じた。 岩手県の一関出身ということで、最後に地元と自分の夢の間のジレンマというテーマで質問させていただいた。私自身何かに取り憑かれたかのように没頭してしまうタイプなので、しばし盲目的になってしまうことが多いと実感している。質問の回答から、自分のキャリアと人生を考えた時の視点の高さと、自分がした判断に自信を持って生きていくことが、自分らしく生きることにつながるのではないかと感じました。ありがとうございました。